同友しずおか

2020
7
VOL.500

私の逸品

マスダテクノ㈱

消毒液スタンド
「フンデイーラ」

静岡県中小企業家同友会

中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会３つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

●社長はいつも孤独
●経営の成功体験しか聞けない
●目の前の仕事に追われる毎日
●指示待ち社員ばかり
●経営の悩みを相談する仲間ができた
●失敗談から勇気とヒントをもらえた
●将来の会社のビジョンができた
●自発的な社員が増えた
その答え、同友会にありました。
会員募集中
経営者同士だからこそ話せる悩み、解決へのヒント、将来への展望。体験してみませんか？
静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

新会員のご紹介
（敬称略）　会員数　1063名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
山田（やまだ）　尚子（なおこ）	㈱サンロフト 情報サービス業（システム開発、ホームページ制作）	志太	松葉　秀介

名義変更による新名義人
（敬称略）

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
今泉（いまいずみ）　清司（せいじ）	三島信用金庫 金融業	沼津	髙嶋　正芳

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。

同友しずおか　500号のあゆみ

「同友しずおか」は本紙で500号となりました。1974年１月に「静岡同友会準備会ニュース」として第一号の広報誌が発刊され、その後「同友しずおか」に名称が変更されました。今後も、同友会のあり方や会員のすぐれた企業づくりの実例や運動の成果を全会員に伝える機関紙として、多くの皆様にご愛読いただけると幸いです。

静岡同友会準備会ニュース　No.1　1974・1・25

静岡同友会の結成準備すゝむ

第1号として発刊された「同友会準備会ニュース」

同友しずおか

第118号　昭和60年9月25日

静岡県中小企業家同友会　志太榛原支部設立総会

会員企業…発展とロマンを求めて

御殿場につぎ　志太榛原にも支部誕生

支部活動も軌道に…御殿場

1985年「同友しずおか」に名称を変更

私の逸品

消毒液スタンド「フンデイーラ」

マスダテクノ㈱（中遠支部）
代表取締役　桝田　義高氏

桝田　義高氏

注目の製品で再登場

以前「塗装用ハンガー」を取り上げたマスダテクノ㈱の桝田義高氏。失敗に学び、本業の大切さを語った前回から３年。時流に乗った製品を引っ提げて再度の登場です。

消毒液スタンド「フンデイーラ」

今回の逸品は足踏み式消毒台「フンデイーラ」。新型コロナウイルス感染症の流行により店舗等の入口でよく見かけるようになった消毒液用ポンプは、薬液を押し出す際、手で触れることについ抵抗を感じてしまう方も多いのではないでしょうか。そこで、ポンプに触れずに手指の消毒ができるよう、同社で独自開発したのがこの製品です。ポンプを置く台の下方のペダルを踏むと鉄製の板がポンプを上から押して液体が出るという仕組み。遠州弁の「踏んでいいら」からのネーミングですが、開発のきっかけは、その少し前に取引先から持ち込まれたアイディアを製品化した「フレンデイーラ」でした。

足踏み式消毒台「フンデイーラ」

自社製品開発への思い

「フレンデイーラ」は、電車のつり革やドアのレバーなど、不特定多数が触れる箇所をつかむためのフックのような製品で、これも注目されたのですが、今だから必要とされる何かを自社でも独自に創り出せないか、と考えるうちに社員から出てきたものが「フンデイーラ」でした。着想から一週間で製品化に漕ぎ着け、メディアも取り上げるなど反応は上々。自慢の粉体塗装で嫌な臭いもなく、大手ドラッグストアが導入するなどかなり引き合いがあるようです。ジュビロ磐田への贈呈も行いました。

「必要とされるものを創る」

本業はあくまで塗装用ハンガーですが、競合もあり年々受注量は減少。残り２本の柱である、階段など住宅用金属製品の受注生産と自社開発製品の占める割合が、塗装用ハンガーとほぼ同じになるまで育ってきました。

本業の受注生産は大切ですが、新型コロナは下請の弱点をまざまざと見せつけました。「必要とされるものを創る」を合言葉に、自社製品で市場に出ていき、いつかはメーカーに脱皮したいという桝田氏。次回作にも自信を覗かせています。「待ちの姿勢でなく攻めていきたい。自社製品開発には今後も力を入れていきます」と決意を新たにしていました。

手を使うことなく消毒液を出すことができます

取材・記事：鈴木 弘之氏
（税理士法人　あい会計・中遠支部）

マスダテクノ㈱
〒438-0831　磐田市上新屋666
TEL：0538-74-3120
URL：http://www.masuda-techno.co.jp

設立　2008年
社員数　６名（パート含む）
入会年月　2016年８月
事業内容　塗装用ハンガー、住居用階段・てすり、遊具の製造

静岡県信用金庫協会との意見交換会を開催
～新型コロナによる企業影響と金融機関の取組み・支援を意見交換～
6月11日（木）　会場：静岡財務事務所

6月11日、4年目となる（一社）静岡県信用金庫協会（以下、信金協会）との意見交換会を東海財務局静岡財務事務所（山崎所長）の仲介にて開催しました。同協会から御室会長（浜松いわた信金理事長）、田形副会長（しずおか焼津信金理事長）、紅野副会長（沼津信金理事長）らが出席。両会長挨拶後、要望書を提出。続いて「新型コロナが中小事業者に与える影響、今後の支援」をテーマに、静岡同友会からは、中同協第4次要望・提言の説明、企業経営の現況や見通しを報告しました。井上代表理事からは経営指針書を渡し資金確保について、簑副代表理事からは信金とのコミュニケーションと事業性評価融資の自社事例を紹介。信金協会からは緊急貸付の対応状況や地域経済の景況感、今後の事業者支援の取組み等について説明がありました。意見交換では中小向けの永久劣後ローンの創設や超長期ローン、資本性融資が話題に挙がり、事業承継支援等についても意見を交わしました。

【参加者感想】

簑　威頼氏（㈱アサギリ・副代表理事）

昨年度中に予定していた当意見交換会ですが、コロナ禍の影響で6月に開催されました。私は副代表理事として初めての出席で、緊張気味でした。静岡財務事務所山崎所長の開会挨拶として法人企業景気予測速報の報告、両団体代表挨拶の後、井上代表理事と私が中小企業の現状報告をさせていただきました。井上代表からは自社の経営指針書に基づく経営並びにコロナ禍での対応の説明があり、私は経営革新を用いた自社の取り組み、金融機関作成の事業性評価シートを用いた経営方針策定とコロナ禍での対応を説明しました。その後、遠藤会長から景況調査や歴史から読み解く今後の予測についての報告、県内の状況について信用金庫協会会長、副会長からの説明と続きました。静岡県は東西に長く、地域ごと業界や課題が異なりますが、県内各信用金庫が積極的に取引先企業にヒアリングを実施しほぼ実態の把握が出来ている状況とのことでした。コロナ禍後の「出口」戦略について、金融機関との連携を強化していきたいと意見交換し、限られた時間でしたが有意義な時間となりました。

出席者名簿　（敬称略）

機関名	役職名	氏名
東海財務局 静岡財務事務所	所長	山崎　正晴
	理財課長	水谷　有里
一般社団法人 静岡県信用金庫協会	会長	御室　健一郎
	副会長	田形　和幸
	副会長	紅野　正裕
	常務理事	永野　英行
静岡同友会	会長	遠藤　一秀
	代表理事	井上　斉
	副代表理事	簑　威頼
	事務局長	秋山　啓希

会員20名が参加しました。座談会では、緊急融資の対応状況や「ものづくり補助金」の申請や相談への支援、「先端設備等導入計画の活用」等の企業支援について同金庫担当者からわかりやすく解説。本業支援重視、販路開拓、事業計画等のフォロー、ものづくり補助金全国1位（令和2年度一次公募）等の同金庫の強みが会員に伝わる貴重な機会となりました。参加者からはコロナ影響での運転資金や設備投資計画について質疑を交え情報交換。オンライン開催は同金庫も初めての試みとなりました。同金庫とは2019年3月に「中小企業等支援に関する包括連携協定」を締結しており、会員間の交流、会行事への参加や情報発信を進めてきました。ウィズコロナの時代においても、地域と共に歩む中小企業と地域金融機関との関わりを密にし、企業と地域の存続、発展にむけて関係を強化していきます。

★当日の資料はｅ－ｄｏｙｕの掲示板「新型コロナ感染症に関するお知らせ」より配信しております。ぜひご覧ください！

島田掛川信用金庫とオンライン相談座談会を開催
6月16日（火）　ＺＯＯＭにて

6月16日（火）、島田掛川信用金庫と「中小・小規模企業の支援・融資制度のオンライン相談座談会」をＺＯＯＭで開催、

静清信用金庫と包括連携協定を締結

7月1日に、県内2例目となる包括連携協定を、静岡市に本店をおく「静清信用金庫」と締結しました。中小企業の発展と地域経済を活性化させる目的にむけて、今後具体的な取り組みを検討していきます。

◆速報集計◆静岡同友会　第４２回景況調査記者発表資料より

第４２回景気動向調査へのご協力誠にありがとうございました。４７０社（回答率４３．９％）の調査結果を集計し、速報として７月２日にプレスリリースをしました。

◆現在の業況判断◆

「新型コロナ影響により中小企業の業況が急速に悪化。製造業はリーマンショックを超える過去最低の水準に」

・『業況判断ＤＩ(良い・やや良い-悪い・やや悪い)』は▲４２(前回１２月期▲１)と４１ポイントも悪化した。「良い・やや良い」と答えた企業は１５．８％(前回１５．８％)、反対に「悪い・やや悪い」は５７．４％(前回２９．９％)だった。２００９年６月期▲５４、同１２月期▲５３に迫る落ち込みとなった。特に製造業は▲７２(前回▲１０)で、リーマンショックで記録した最低▲６９(２００９年６月)よりさらに悪化。流通・卸小売業は▲６０(前回▲３２／２００８年１２月▲７３)、サービス業▲４１(前回３／２００９年１２月期▲４９)とリーマンショックと同程度までの落ち込みを示した。

◆今後の見通し◆

「新型コロナ影響長期化か。全業種が１年先まで景気後退を予測。“付加価値の増大”“新規受注”が力点」

・『６ヶ月先』は、全体で「やや悪い・悪い」と回答した割合は６６．９％、ＤＩ値では業況判断(現在※以下「現在」)▲４２→６ヶ月先▲５７。業種別では「建設」現在６→６ヶ月先▲３９、「製造」現在▲７２→６ヶ月先▲８２、「流通・卸小売」現在▲６０→６ヶ月先▲６９、「サービス」現在▲４１→６ヶ月先▲４４。全業種で現在より大幅に悪化すると予測している。

・『１年先』においても全体で「やや悪い・悪い」の回答が６４．７％を占め、業況判断(現在)▲４２と比べ１年先▲５３。業種別の１年先の見通しは「建設」▲６２、「製造」▲６６、「流通・卸小売」▲５５、「サービス」▲３８と新型コロナ影響長期化を予測する声が多い(詳細は次頁)

◆特別設問◆　「新型コロナ感染拡大の影響について」

【設問①】新型コロナが与えた影響について(※一部抜粋)

・未だ自粛ムードが続いているため、観光に対する仕事の受注(特に宿泊施設)への影響が顕著に生じている。年内も受注状況は厳しい。(製造業／東部)

・外に出られないこと。感染防止の対策。需要減少の行き先を見極めること。同時に仕事そのものについて会社そのものについての根本的に考えることができたこと。会社・事業の存在理由についてあらゆる角度から見直すことができた。あるいは見直しつつあること。(建設業／中部)

・営業スタイルの変化。以前は直接訪問面談、展示会に参加、新規顧客への売り込みという形ができなくなったことによる販売の減少。売上機会の損失。(卸・小売業／中部)

・自粛要請により、購買意欲が減退し新たな注文が減った。いわゆる三密の状態回避のため営業がしにくくなり、担当者と打ち合わせが出来ず、仕事がスムーズに行かなくなった。(製造業／東部)

・働き方の変革。オンライン（非対面）での営業が可能となり、出社回数も減り、オフィスの必要性について考える機会となっている。(サービス業／西部)

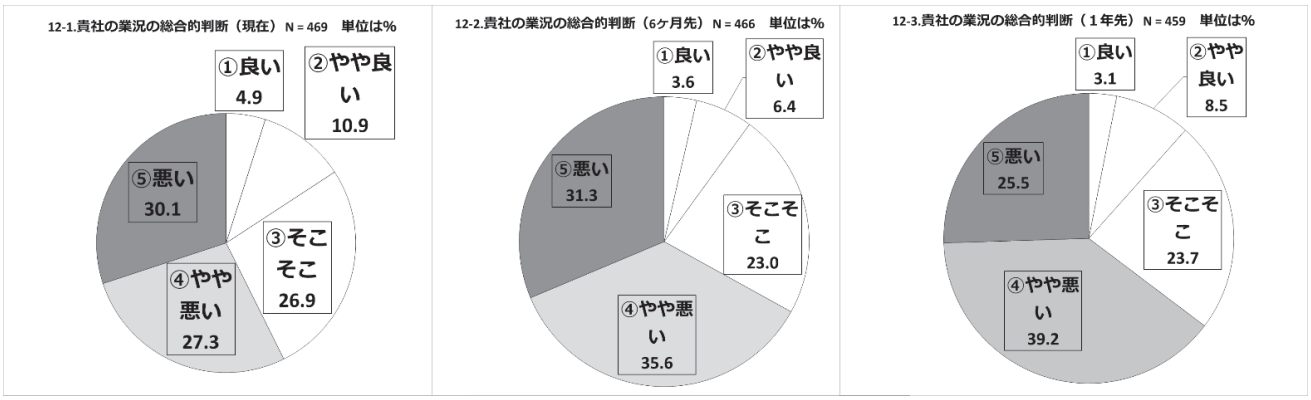
【設問②】新しい自社の在り方や検討・実施している取組み、対応への課題や悩みについて（※一部抜粋）

・対面販売や来店者を増やし新規ユーザーを増やす経営戦略だったが、ＹｏｕＴｕｂｅやツイッターなどのＳＮＳで広告、商談を増やし、リモートで接客して商談成立までのシステムを作っている。(サービス業／東部)

・付加価値増大にむけて職人の雇用、デザイン事務所との連携。(製造業／中部)

・インターネットなど、発注・相談方法の変更。逆に人を育てる、チーム力を高めるチャンスかもしれない。(製造業／製造業)

・これまで以上に経営理念に基づいた地域密着型経営の強化。心配事は半年後、１年後における一般消費の冷え込み具合の不透明さ。(建設業／西部)



今年度初のイントロセミナーを開催！

6月26日(金) 会場：同友会会議室&ZOOM 参加：24名

同友会会議室とZOOMでの参加を併用し、今年度初のイントロセミナーは過去最多6支部から24名の参加がありました。はじめに海野敦県組織増強委員長より「新しい会員やオブザーバーに同友会を知ってもらう活動としてだけでなく、支部の垣根を越えた情報交換の場として積極的に参加してほしい」と挨拶。その後、森下昌治氏（㈱森下商店・静岡支部）よりコロナ禍における自社の現状とチャレンジを報告。金山寺みそをはじめ、漬物などの食品製造と卸売をする同社。「静岡は全国で有数の金山寺みその生産地。魅力を発信し地域の名産品として認知されるよう努力していきたい」と今後の展望を話しました。その後、会場とZOOMそれぞれで、新たにチャレンジしていることについてグループ討論しました。

次回は7月30日（木）開催です。ぜひ、オブザーバーとご一緒に参加ください！

県共育委員会主催 ビジネスマナー&コミュニケーション研修を開催

6月16日(火) ZOOMにて

社会人としての基本を学ぶ本研修は、例年4月に合同入社式と併せて開催していますが、新型コロナの影響で今年度はZOOMにて開催しました。講師は昨年に引き続き須山由佳子氏（㈲キャリア・アップ／浜松支部）が務め、会員10社より計12名が参加しました。講義では挨拶やマナーの大切さ、働く中でのコミュニケーションを学びました。グループディスカッションでは働く上での悩みや不安などについて意見交換を行いました。最後に鈴木雅夫氏（香港静雅有限公司・副代表理事／榛南支部）より「会社にある理念を知り、深く理解しましょう」と、青山達弘氏（㈱青山建材工業・副代表理事／静岡支部）より「皆さんは入社した日から主役です。共に成長しましょう」とのエールが送られました。

須山 由佳子氏

共育委員長より

社員の可能性広げたZOOM研修

今回のZOOM研修には、新入社員の20代からキャリアのある40代の方まで幅広く参加がありました。「ブレークアウトルーム」機能を使ったグループ討論では、年上の方が若手をけん引して話し合いを盛り上げ、たくさんの意見が出ていました。報告の発表では、受講生が積極的に挙手して話してくれる場面もありました。

受講生から「報告・連絡・相談」について、上司に報告するタイミングが難しいとの相談があり、この悩みはキャリアのある方も同様でした。そしてこのような悩みについて受講生同士で話し合う中で、新たな気づきが得られたようでした。須山講師からのアドバイスをもとに「クッション言葉」をこれから働く中で使ってみるという受講生の言葉もありました。

今回は限られた時間の中での研修でしたが、持ち帰ってもらえるものがあったのではないでしょうか。10月には若手社員研修を、出来れば顔を合わせて実施したいと計画していますのでぜひご参加ください。社員さんの普段見られない姿を発見できますので、経営者の方の参加もお待ちしております。

野川 和三氏
（㈱野川商店・榛南支部）

受講生の感想を一部ご紹介します

・自分で判断せずに早めの報連相を心がけたいと思った
・気持ちの良い元気なあいさつを心がけ、円滑なコミュニケーションがとれる人間関係を築きたいと思った
・マナーは人を不快にさせない行為で、思いやりを形にするということだという点がとても印象に残った

	参加企業一覧（順不同）
1	サツマ電機㈱（沼津支部）
2	㈲弥生製作所（沼津支部）
3	社会保険労務士法人 シャイン（富士宮支部）
4	㈱高栄塗装（静岡支部）
5	㈲松本鉄工所（静岡支部）
6	㈲ミヤタ印刷（静岡支部）
7	駿遠三菱自動車販売㈱（志太支部）
8	㈱藤枝パークインホテル（志太支部）
9	小塚建設㈱（榛南支部）
10	増田工業㈱（榛南支部）

我が経営を語る！ 静岡社長TV SHIZUOKA DOYU

不離一体シートの活用に学ぶ ～走りながら考える！～

第３回　松葉　秀介氏

（松葉倉庫㈱・副代表理事／志太支部）

藤枝市で倉庫業・運送業に加え、市内初の企業主導型保育園「まつの実」を運営する松葉倉庫㈱。２０２０年４月に50期目を迎えました。代表取締役社長の松葉秀介氏は同友会歴23年、志太支部長などを歴任し現在は静岡同友会副代表理事を務めています。これまでを振り返ると立場や責任の変化に伴って、同友会３つの目的の捉え方や同友会での学び方が変化し、結果としてそれぞれの経営判断や決断の土台になっていると話します。また、自身が活用している「不離一体シート」を紹介。会社を取り巻く環境の変化や同友会での学びや役職などを時系列で記入していくことで、これまでの会社の歩みや心境の変化、判断のポイントなどを振り返ることができます。不離一体シートの活用について松葉氏は「自分が何を意識し、何をもとにどのような判断、決断をし、どのようなアクションを取ったのか。点ではなくジグザグかもしれないが一本の太い線で繋がっていると確認できる。これが不離一体シート活用の最大のメリット。少しずつ積み重ねた経験が次の自信やアイデア、好奇心の引き出しの数に繋がっていると感じる」と言います。

最後に「走りながら考えるしかない！」「想ったようにしかならない！」「やったようにしかならない！」「無駄な事にしない！」「考えておかないと（いないと）動けない！」「ピンチもチャンスも！（繰り返しやってくる・繋がっている）」「関心事や学びのテーマ、役割や責任は変化していく！」と、不離一体シートの活用で学んだ７つのキーワードを紹介。コロナ禍においても、多くの学びを実践し走り続ける松葉氏の報告はＹｏｕＴｕｂｅからご覧ください！

YouTube動画はこちらのＱＲコードからご覧いただけます！

前編　後編

今、改めて企業のあり方を考える

三島市で企業再生支援と事業承継支援、組織開発をおこなうＫＪＳコンサルティング合同会社。代表で中小企業診断士の浅田博彦氏が6月沼津例会で「今、改めて企業のあり方を考える」をテーマに報告しました。２０１６年に中小企業診断士として創業した浅田氏は、企業再生支援と事業再生支援を行う中で、組織開発の重要性を感じ、現在３つの柱で企業を支えています。

浅田氏はコロナ禍における中小企業の対応について、まずは半年程度の資金を確保すること、それには資金繰り表の作成が重要であることを伝えました。また、よい会社の条件として「両利きの経営ができていること」「３つの力がうまく回っていること」が重要と言います。「両利きの経営」とは新たな事業や時代に必要とされることにチャレンジしていく「探索」と、現在の事業をより深く掘り下げる「深化」の２つが企業としてできていること。長く続く企業は「探索」を怠らないことが特徴と紹介。次に「３つの力」とは、企業における人材力・組織力・関係力の３つをいい、ここでいう組織力とは同友会の経営指針（経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画）に繋がります。「人材力や関係力があっても組織力（経営指針）がない組織は共通の目標がないことが多く、少しでも関係性が崩れると退職に繋がりやすい。反対に組織力があっても上手なコミュニケーションなどがなければ、組織として力を発揮することは難しい。」と３つの力が関係し合って組織が成長していくことを伝えました。

浅田氏の報告の詳細はＹｏｕＴｕｂｅをご覧ください！

同友しずおか
静岡県中小企業家同友会
コミュニケーションマガジン
2020年7月10日号　通巻500号　定価200円

7月・8月　DOYU CALENDAR

7月16日㈭～8月15日㈯

7月 16日(木)	榛南例会（19:00 さざんか＆ZOOM） 中遠例会（19:00 ワークピア磐田） 浜松例会（ZOOMでの参加可） （19:00 クリエート浜松＆ZOOM） 富士例会（19:00）
17日(金)	県組織増強委員会（17:00 ZOOM）
21日(火)	県障がい者問題委員会（18:00 事務局） 県共育委員会（19:00 ZOOM）
22日(水)	県理事会（15:00 ZOOM）
27日(月)	三島例会（19:00 ZOOM）
28日(火)	県例会企画委員会（18:00 ZOOM）
30日(木)	第17期経営指針を創る会 第１講（19:00 未定） 会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私」（19:00 事務局＆ZOOM）
8月 4日(火)	静岡納涼例会（19:00 未定）
6日(木)	県総務財務委員会 （16:00 事務局）
12日(水)	御殿場納涼例会 （19:00 いきなりステーキ）

《 あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください 》

中小企業家しんぶん６月５日号を活用した学びの場が広がっています！

今年度の中同協総会議案を兼ねた中小企業家しんぶん６月５日号を活用した学びの場が各支部・委員会で広がっています。特に第三章「本年度の課題と活動方針」の、新型コロナに負けない全社一丸の企業づくり、感染拡大の影響長期化の想定と次代を展望した同友会づくり、ポスト・コロナ社会を展望し経営環境の改善と地域づくりについてそれぞれ支部役員会や県専門委員会の場で、自社経営と照らし合わせながらの話し合いが行われています。コロナ禍の激動の時代を変革の好機とし、知恵を出し合いながら積極果敢に挑戦していく姿勢が同友会にも企業経営にも求められるいま、自らの同友会と企業経営をチェックする指標として中小企業家しんぶん６月５日号をぜひご活用ください。

（1）2020年(令和2年)6月5日（1979年1月20日第三種郵便物認可）第1510号　URL https://www.doyu.jp/

2020 6.5 毎月3回発行 5日, 15日, 25日 第1510号

中小企業家しんぶん

発行：中小企業家同友会全国協議会（略称 中同協）〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビル3F 電話03-5215-0877(代) FAX 03-5215-0878
定価：年間3,300円(税・送料込)
バックナンバー検索 http://shinbun.doyu.jp/ ユーザー名 shinbun パスワード Mdwxfys4

今号の紙面から
1面 新型コロナウイルス感染症問題に関する会長談話
2面 第52回定時総会議案概要／開催方法の変更
3～14面 第52回定時総会議案
15～16面 新型コロナに関する４次緊急要望・提言／永久劣後ローンに関する緊急要望・提言

新型コロナウイルス感染症問題に関する会長談話（2020年５月19日）

長期化に備え、視座高く変化に対応しよう
～中小企業の維持、存続こそ　経済・社会の支え～

中小企業家同友会全国協議会　会長　広浜　泰久

新型コロナウイルス感染拡大の問題は、４月７日、国が７都府県に「緊急事態宣言」を発令し、16日には全都道府県に適用されたことにより、経済活動の基盤である人と物の動きが大きく制限され、さまざまな業種で事業の継続に深刻な危機をもたらしています。

さらに国は、５月６日までとしていた緊急事態宣言の期限を31日まで延長する一方、14日には39県の適用を解除するなど、感染症対策を地域ごとに判断する方向を示しています。また、残す８都道府県の解除も21日をめどに判断するとしていますが、ワクチン開発などウイルス対策の確立を見るに至っておらず、「第二波」「第三波」の可能性は否めません。

この問題の経営への影響の長期化に備え、あらためて会員のみなさんに以下の点を呼びかけます。

１．事業の継続に全力を尽くそう

深刻さを増す危機の中で、あらためて事業継続のために手を尽くしましょう。

①支援施策も活用し徹底した資金手当てをし、②社員の雇用と健康を守り、③社内での正確な現状認識の共有と対策を実践し、④会員間ネットワークを活用・強化するとともに、⑤一人で悩まず同友会に相談し知恵を出し合いましょう。

２．経済・社会の変化に備えよう

感染症対策による事業活動・社会活動の制限や変化は、事業のあり方に転機をもたらそうとしています。この転機を新たなビジネスチャンスにつなげるために、自社の強みを再確認し、事業領域や社内体制の抜本的見直し、連携の強化・促進など、企業変革の機会にしましょう。

３．活動する同友会の姿を会内外に示そう

39県での緊急事態宣言の解除により、地域ごとに事業活動・社会活動の制限が緩和されていきます。同友会活動も各地域の条件に合致させ、会員一人ひとりに声をかけ、企業と雇用・地域を守る取り組みを広げ、事業活動の再興・強化を支えることにより、中小企業憲章にあるように「社会の主役」として役割を果たしましょう。

４．一人ひとりが生き生きと輝く社会にしよう

感染症問題の危機に直面し、人権や人間性をないがしろにするような行動の問題も報じられています。しかし、市民一人ひとりがかけがえのない存在であり、社会的に支え合わねばなりません。私たちは今、地域に生きる経営者としての姿勢と存在意義が問われています。自社における「人を生かす経営」を貫き通し、地域の絆を紡ぐリーダーとして、その考え方を社会に広めましょう。

総会議案に対するご意見について

中同協では、定時総会議案の充実のため、各同友会の役員会や支部での活発な論議をお願いしています。総会議案への会員の皆さんの意見は、各同友会でまとめ、中同協へ送られます。６月30日までに集約しますので、各同友会事務局へ早めに文書にてご意見をお寄せ下さい。

中同協第52回定時総会議案　目次

第１章　2019年度をふりかえって
第１節　同友会の歴史と理念に学び未来をひらく中同協設立50周年　…３面
第２節　企業づくり～働く環境を整備し、人を生かす経営の総合実践を　…３面
第３節　経営環境の改善と地域づくり　…５面
第４節　同友会づくり　…７面
第２章　中小企業をめぐる情勢
第１節　世界経済　…９面
第２節　日本経済と地域経済　…10面
第３節　中小企業憲章を軸に日本経済の質的転換を　…12面
第３章　本年度の課題と活動方針「今こそ同友会で知恵を出しあい実践し難局を乗り切ろう！」
第１節　企業づくり～コロナに負けない「全社一丸」の経営　…13面
第２節　同友会づくり　…14面
第３節　経営環境の改善と地域づくり　…14面

円卓

「新しい生活様式」が国から示されました。その内容を見るに、新型コロナ問題を克服するための「当面の生活様式」であると考えられます。これからの生活が、すべからく「新しい…」で示されたものに変わり常態化するとは思えません。一方、テレワークによる在宅勤務などの対応は、職種や業種により合理的な面をもちあわせており、導入がさらに促進される可能性はあります▼新型コロナ問題に関して、山極壽一京都大学総長は報道番組のインタビューで、「人間らしさとは、違いがある人々が集まり協働して生きる喜びを得ること。これがコロナで全部奪われてしまった」旨を語りました。しかし氏は、「人類は弱みを強みに変える戦略で生き延びてきた」という認識を背景に、今回の問題を経験して「人々はもっと寛容になれるのではないか」と希望をも語りました▼「視座高く変化に対応しよう」と、企業経営と同友会運動を継続するために、三回目の「会長談話」が発表されました。談話には「一人ひとりが生き生きと輝く社会にしよう」との呼びかけがあり、"寛容な社会"のさらに先を示しています。人間らしさを保ち前進するために、同友会理念の体現が求められています。

新型コロナウイルス感染症関連支援策等　リンク先一覧

新型コロナウイルス感染症の影響で資金繰り等でお困りの事業者の方へ

東海財務局ＨＰ内にて、県内での国、公的機関、金融機関及び地方公共団体の各支援策に係るリンク先一覧をご覧いただけます。右のＱＲコードよりぜひご覧ください。

（出典：東海財務局HP　http://tokai.mof.go.jp/sizuoka/zimusyo_link_00001.htm）